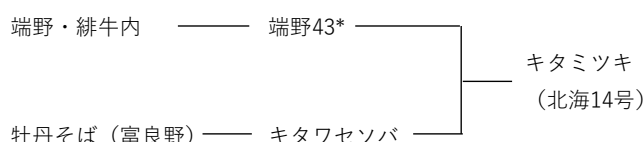


そば「キタミツキ」

1 特性の概要

(1) 来歴

「キタミツキ」は農研機構北海道農業研究センター（芽室研究拠点）において、多収・高品質そば品種の育成を目標にして「レラノカオリ」の初期世代である「端野43」と「キタワセソバ」の交配後代から選抜した。平成27年に「キタミツキ」と命名し、品種登録出願した。



*端野43はレラノカオリの初期世代。平成16年に「端野43」と「キタワセソバ」を交配。

(2) 特性

- ・開花期および成熟期は「キタワセソバ」よりやや遅い。
- ・草丈は「キタワセソバ」よりやや高く、倒伏程度は「キタワセソバ」と同等である。
- ・子実重は「キタワセソバ」より重く、容積重は「キタワセソバ」より重い。千粒重は「キタワセソバ」と同程度である。
- ・製粉歩留は「キタワセソバ」と同程度である。
- ・ルチン含量は「キタワセソバ」より高い。
- ・麺の食味評価は「キタワセソバ」と同程度である。

「キタミツキ」の特性一覧

品種名	開花期 (日)	成熟期 (日)	草丈 (cm)	第一次 分枝数 (本)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	標準比 (%)	容積重 (g/L)	千粒重 (g)	製粉 歩留 (%)	検査 等級	ルチン 含量 (mg/100gD.W)
キタミツキ	7.12	8.20	105	2.6	1.3	170	120	599	29.2	72.0	1.3	24.1
キタワセソバ(標準/対照)	7.11	8.18	103	2.6	1.2	142	100	588	29.2	71.2	1.7	20.0

倒伏程度：無0～甚5.

容積重：磨きをかける前の値.

検査等級：新規格で評価した平成29～令和元年の平均.

(3) 長所及び短所

長所

1. 「キタワセソバ」より多収である。
2. 容積重は「キタワセソバ」より重い

短所

特になし

(4) 用途

主に国産の蕎麦切り用として利用される。

2 候補理由

北海道のそば作付面積は、平成元年の4,930haから平成30年には24,400haへ拡大し、全国の作付面積の約4割を占める。平成30年度の日本のそば生産量は29,000トンであり、そのうち北海道の生産量は約4割を占め、北海道のそば生産の作柄が国産そばの供給に大きな影響を与えている。現在の主力品種「キタワセソバ」は、北海道のそば作付面積の約9割にあたる約21,000haで栽培されている。しかし、単収は漸減傾向であり、今後も北海道そばの生産を維持し、さらには国産そばの自給率（20.9%、平成30年度）を向上していくためには、生産性の高い品種が必要である。また、経営所得安定対策における、農産物検査規格の改正（平成27年度）で、そばは容積重に応じた等級格付けとなり、容積重が従来以上に重要視されるようになったため、生産者からは多収かつ高品質（高容積重）の品種が求められている。

「キタミツキ」の収量性は「キタワセソバ」より高く、容積重は「キタワセソバ」より重いことから、安定生産や生産者の収益増加が見込まれる。実需者による品質評価では「キタワセソバ」と遜色がない。

以上の理由から、「キタミツキ」を「キタワセソバ」に置き換えて普及することにより、北海道および国産そばの生産振興に貢献できる。

3 普及

(1) 栽培適地

北海道のそば栽培地帯

(2) 普及見込み面積

6,000 ha（令和7年）（作付総面積21,501ha、27.9%）

(3) 北海道農業試験会議（成績会議）における判定

普及奨励事項

4 その他特記事項

なし

5 参考データ

実需者による食味評価結果

A社（平成25-26年）

品種名	色	香り	味	食感	そばらしさ	製麺性
キタミツキ	2.5	2.1	2.1	2.1	2.2	2.3
キタワセソバ	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0

B社（平成25-28年）

品種名	色	香り	味	かたさ	そばらしさ	合計
キタミツキ	14.7	14.2	14.0	13.5	13.7	70.1
キタワセソバ	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	70.0

C社（平成25,30年）

品種名	色 (赤-緑)	香り	味	かたさ	弾力	滑らかさ
キタミツキ	5.5	5.0	4.9	4.8	5.0	4.9
キタワセソバ	5.0	5.0	4.9	5.2	4.9	5.0

A社の評価は4：優、3：良、2：可、1：不可。B社は「キタワセソバの」各項目を14（普通）として相対評価、C社の評価は7段階評価で数値が高いほうが高評価。C社の色（赤-緑）は、数値が高いほうが緑みが強い。

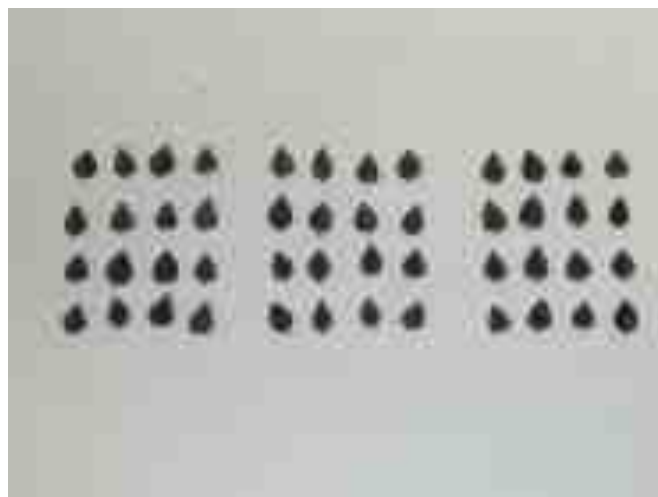
(写真)

そば「キタミツキ」



成熟期における草本

左：キタワセソバ（標準・対照）、中：キタミツキ、右：レラノカオリ（比較）



子実

左：キタワセソバ（標準・対照）、中：キタミツキ、右：レラノカオリ（比較）